

作業学習のDX化

本校は昭和25年から32年まで「都立青鳥中学校」でした。当時、高等部は設置されておらず、それに代わるものとして「青鳥中学埼玉職業実習所」が、埼玉県児玉町(現:本庄市の一部)にありました。そこでは青鳥中学を卒業した生徒が、土管づくりなどの作業学習をしていました。約70年の時が経ち、作業学習も様変わりしました。今は、清掃や流通、事務、店舗サービスなど、サービス中心の内容になっています。これはこの70年で、東京の産業構造が変化し、それに合わせて作業内容も変化させてきたということになります。そしてこれからの変化を考えると、**デジタルとともに働く作業学習が必至**となってきます。



よく「デジタル機器の導入は、障害者の仕事を奪うのでは」という意見を聞きます。本当にそうなのでしょうか。本校では流通室にデジタルピッキングシステム、カフェに配膳ロボットを導入しています。これらを導入したことにより、例えば、リストを見て商品を指示の個数棚から取り出すことができなかつたとしても、デジタルピッキングシステムがあれば、确实、正確に商品を集めることが出来ます。また、熱い飲み物を乗せたトレイを運ぶことができなかつたとしても、配膳ロボットと組むことで、すみやかにそして安全に物を運べ、品物を提供することが出来ます。つまり、**デジタルは「障害者の仕事を奪うもの」ではなく、「障害者をアシストしてくれるもの」**になるのです。

幸い、本校には企業や公的機関、他県の学校から多くの視察があります。みなさんに本校の作業学習のDX化の実践例を見ていただき、障害者とデジタルのあるべき付き合い方が発信できればよいと思っています。

1月のトピック

青鳥祭 ありがとうございました！

1月13日(土)に仮設校舎で初めての青鳥祭を開催しました。各学年、発表や作業販売、展示を行いました。当日は、たくさんの保護者の方に御来校いただき、生徒の勇姿を御覧いただくことができました。当日の円滑な運営への御理解と御協力ありがとうございました。

